【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年9月25日(2014.9.25)

【公表番号】特表2014-506584(P2014-506584A)
【公表日】平成26年3月17日(2014.3.17)
【年通号数】公開・登録公報2014-014
【出願番号】特願2013-554747(P2013-554747)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　38/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 9/04　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/58　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　 9/04
Ａ６１Ｋ　45/00
Ｃ０７Ｋ　14/58　　ＺＮＡ

【手続補正書】
【提出日】平成26年8月6日(2014.8.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
対象における慢性うっ血性心不全（ＣＨＦ）または急性非代償性うっ血性心不全（ＡＤＣＨＦ）を処置する方法であって、前記対象に対して有効量の心房性ナトリウム利尿ペプチド（ＡＮＰ）プロホルモン由来のペプチドまたはその模倣物を投与することを包含する、前記方法。
【請求項２】
前記ペプチドまたは模倣物が、１分あたり対象の体重１ｋｇあたり１～４００ｎｇの速度で注入によって投与される、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、０．１～７５μｇ／ｋｇ／日の範囲である、請求項２に記載の方法。
【請求項４】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、約０．１～５μｇ／ｋｇ／日の範囲である、請求項３に記載の方法。
【請求項５】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、約０．１～３．５μｇ／ｋｇ／日の範囲である、請求項４に記載の方法。
【請求項６】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、約０．７５μｇ／ｋｇ／日である、請求項５に記載の方法。
【請求項７】
前記ペプチドまたは模倣物が、７５ｎｇ／ｋｇ／分以下の速度での注入によって投与される、請求項１～６のいずれか１項に記載の方法。

【請求項８】
前記ペプチドまたは模倣物が、５０ｎｇ／ｋｇ／分以下の速度での注入によって投与される、請求項７に記載の方法。
【請求項９】
前記ペプチドまたは模倣物が、１～１５ｎｇ／ｋｇ／分の範囲の速度での注入によって投与される、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記有効量の前記ペプチドまたは模倣物が、約６０分にわたって注入によって１日１回の投与として投与される、請求項１～９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１１】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、４．５μｇ／ｋｇ／日以下である、請求項１に記載の方法。
【請求項１２】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、０．１～１．５μｇ／ｋｇ／日の範囲である、請求項１１に記載の方法。
【請求項１３】
前記ペプチドまたは模倣物の前記有効量が、約０．７５μｇ／ｋｇ／日である、請求項１２に記載の方法。
【請求項１４】
前記ペプチドまたは模倣物が、７５ｎｇ／ｋｇ／分以下の速度での注入によって投与される、請求項１１～１３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１５】
前記ペプチドまたは模倣物が、約２５ｎｇ／ｋｇ／分の速度での注入によって投与される、請求項１４に記載の方法。
【請求項１６】
前記ペプチドまたは模倣物が、約１２．５ｎｇ／ｋｇ／分の速度での注入によって投与される、請求項１５に記載の方法。
【請求項１７】
前記有効量の前記ペプチドまたは模倣物が、約６０分にわたって注入によって１日１回の投与として投与される、請求項１２～１６のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１８】
前記方法が、ＮＹＨＡクラスＩＩＩという症状重症度レベルを有する慢性ＣＨＦを処置するために用いられる、請求項１～１７のいずれか１項に記載の方法。
【請求項１９】
前記方法が、ＮＹＨＡクラスＩＩＩまたはＩＶという症状重症度レベルを有するＡＤＣＨＦを処置するために用いられる、請求項１～１８のいずれか１項に記載の方法。
【請求項２０】
前記方法が血管拡張剤（ＶＳＤＬ）を投与することを包含する、請求項１～１９のいずれか１項に記載の方法。
【請求項２１】
前記ＶＳＤＬが、配列番号１として示されるアミノ酸配列からなる、請求項２０に記載の方法。
【請求項２２】
対象において急性非代償性うっ血性心不全（ＡＤＣＨＦ）を処置する方法であって、前記対象に対して有効量の血管拡張剤（ＶＳＤＬ）を投与することを包含し、ここで前記有効量は、約０．１～２０μｇ／ｋｇ／日の範囲であり、かつ５０ｎｇ／ｋｇ／分以下の速度での注入によって投与される、前記方法。
【請求項２３】
対象において急性非代償性うっ血性心不全（ＡＤＣＨＦ）を処置する方法であって、前記対象に対して有効量の血管拡張剤（ＶＳＤＬ）を投与することを包含し、ここで前記有

効量は、約０．１～１．５μｇ／ｋｇ／日の範囲であり、かつ注入によって投与される、前記方法。